

第1回教育・子育て部会 主な意見

●地域の子どもたち（の現状）

- ・中学生が店の前でたむろ
- ・目標設定・やりがいのない子どもたち。得意なことを伸ばす必要

●地域の生活環境（の特徴）と地域教育

- ・困窮世帯、ひとり親世帯が多い。昔は地域で子どもをみたが今は関係性が薄い
- ・生活レベルの高い所とは全然違う学力環境。学校再編以外にも手は打ちたい
- ・中学卒業後の将来の選択肢が少ない。親子で進路等、同じ方向を向けるように
- ・地域教育活動が積重なって親の教育・地域活性化につながる（かつての教育運動）
- ・学校再編も最終的に学力にどう影響するか。学力問題から学校再編を考えては

●子どもと大人が”信頼関係“をつくること

- ・大人と子どもの接し方、信頼関係を持った大人が接することが大事
- ・地域の今ある取組み（西教寺、ダッシュ）を横に広げるのも手
- ・集会所を親子がつかえる地域のたまり場にしては
- ・青少年センター建替え時に、子どもが興味を持つ施設としそこから関係つくる

●子育て世代・子どものための既存施設の有効活用

- ・今ある施設・空間を使い子育てや新たなコミュニティを考える必要
- ・使っていない集会所を（小さな）図書館にする
- ・青少年センターを分かり易い場所に移転
- ・旭保育園跡地を活用しては

●子どもを増やす

- ・中三までの子がいる世帯は、無条件に市営住宅に入れるようにしては

●学校再編

- ・これまでの議論で、小中一貫化したら良い、という地域の声が聞こえなかった
- ・現在小規模校化している幸小では、校外学習の費用が割高になり、公共交通を使用せざるを得なかったり、遠足の年間回数が1回になっている状況だが、修学旅行など他校と合同開催できるならばしたい

(参考) 他の部会での関連意見

5/28 地域活性化部会での関連意見

■ 子育て世帯の呼び込み

- 他の地域の学校には無い魅力づくり
- 他市では、ヤングサンタ（地域の青年が保護者に代わりサンタの仮装でプレゼントをお届け）や、PTA が中心となった朝ごはん提供をしている。この地域でもやってはどうか。
- 安心して住んでもらえる住環境が必要。小児科（診療所）や、親子連れが集まれる集客施設の設置。
- 市営住宅に、子育て世帯が住みたくなるような特典（子どもが卒業まで住み続けられる等）をつけたり、入居要件を緩和してはどうか。

5/31 住環境コミュニティ部会での関連意見

■ 将来目指したいコミュニティについて

- 複雑な家庭環境の世帯も受け止められるのがこの地域の良さ。こうした世帯をコミュニティの輪に入れることを目標にしたい。

■ 地域の子育て環境について

- 大変な家庭環境下の子どもが多く、にじのとしょかん等は、地域のセーフティネット的役割。こうした場合は地域が大事にしたことのアピールにもなる。
- このまちはサポートを受けられる、ということが伝わるまちづくり、今まで培ってきたものが残っていくまちづくりにできたらよい。
- 市営住宅の空き住戸に桃山学院大学の学生寮を作っては。地域の親しみやすい学生が子どもに勉強を教えれば、学力アップにつながる
- 青少年センターなどの施設の情報が行き届いてない、どろんこ子ども会に幸小学校以外の生徒が参加しにくいなど、もっと地域の情報を横のつながりで共有しあう必要
青少年センターなど分かりやすく目立つ場所に移転
- (幸小では校区外に行ってはいけないので) 校区内に図書館があると良い。新たに作るなら自習室も併設しては。
- 子どもがボール遊びできる場所がない。自転車で行ける距離に運動できる場所があるとよい。